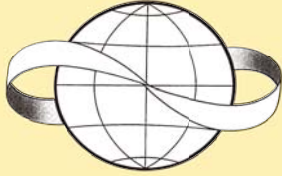


# ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第70号

商標登録第 4882482 号

発行 東多摩再資源化事業協同組合  
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生  
東京都東村山市久米川町1-16-18  
TEL: 042-395-9788  
FAX: 042-395-9787

## 謹賀新年

明けましておめでとうございます  
本年もどうぞ宜しくお願いします

代表理事 吉浦 高志

昨年度の資源業界は、後半に差し掛かってから中国情勢に翻弄された一年でありました。関東商組の古紙輸出は二か月に亘って不調となり、輸出価格も暴落しました。需給バランスから行くと、古紙は余剰化しているわけではなく、中国ではむしろ不足しているということ、業界団体でも割と楽観視する声も多く、流通が止まるという事態にはなりませんでしたが、古紙価格の下落と品質への要求が高まったのは事実です。大きな影響を受けたのは廃プラスチックで、これまでミックスで輸出していたものはほとんどが止まってしまい、一部は産業廃棄物へと流れていきました。情勢を注視していく必要はありますし、品質に関しては別の徹底を引き続きお願いしていきたいと考えております。

組合としましては、昨年七月より東久留米市にて資源物の戸別収集が始まりました。平成二六年一〇月より東村山市で戸別収集化した実績はあるものの、エリアの拡大、狭い路地が多いことなど条件の違いもあり、当初取り残しや後出しの問題などで市や市民の皆様にはご迷惑をおかけすることもあったかと思いますが、現在では大きな問題もなく、組合としてドライバーの新たな実績とすることが出来ました。西東京市、清瀬市、小平市でも新たな収集方法が検討されるものと思いますが、引き続き安全で効率的な回収作業の実施をしっかりと行ってまいります。

そして、平成五年から選別作業を請け負っている柳泉園リサイクルセンター、小平市リサイクルセンターの委託事業は本年で二五年になります。この二五年間、理事責任者、現場責任者の管理の元、大きな事故もなく、安心・安全な作業を行ってまいりました。品質的にも問題のない選別を行ってまいりました。この二五年の間にセンターでの作業のノウハウはもちろん、重機、人員も備えることが出来ました。人員は世代交代もすすみ、この先何年も継続して受託が可能で、中には、この仕事が好きになって、センターの近所に移住してきた者もいます。地域に根差したりサイクルシステムの一翼を担う組合として、これからも行政・市民と手を取り合って、邁進して参りたいと考えております。

## 直言拝聴

『故繊維リサイクルについて』

株式会社ウェイストリサーチ

代表取締役 瓦葺 正雄様



### ●認識されていない故繊維

私が発行している小誌「月刊ウェイスト・リサーチ」(ごみ・リサイクル問題を扱っている)の読者の一人から、「故繊維の記事、なかなか面白いよ」という連絡をいただいた。ここ二〜三カ月にわたって故繊維の輸出状況などについて

関係者への匿名インタビュー記事を掲載しているのだが、それを読んだことのようなのだ。

連絡をいただいた方は再生資源を取り扱っている業者さんなのですが、故繊維リサイクルの深い部分についてはあまりご存知ない様子なので私は「(故繊維のことを)知らないから面白いんじゃないですか」と冗談っぽく言ったところ、「ああ、そうかもしれない。ハハハ」と電話の向こうで苦笑いしていた。

再生資源を取り扱う業者さんでさえ故繊維のことをそれほど知らないということは、資源分別収集に故繊維を出している市民の方々、さらに市町村の担当者の方々は推して知るべし。で、こうしたこともあって今回、故繊維のことについてこの欄に寄稿することになった次第です。アプローチが少々長すぎましたか(笑)。

### ●故繊維の三つの用途

「故繊維」というのは市民がリサイクルとして分別収集などに出す古着や下着類、タオル類、ハンカチ、スカーフ、靴下……等々の総称で、様々な繊維製品が入っているから再生資源の業界では「込ボロ」とか、単に「ボロ」と呼んで

ている。

回収された故繊維は業者などにより、次の三つに選分され送り出される。①中古衣料は主に東南アジアを中心とする海外へ輸出。②輸出に向かない厚手のものなどは反毛(はんもう)といって、綿わた)状に加工され自動車部品や建築用資材に使用。③木綿製品はウエス(工業用油拭き)に加工して販売する。

こうしてみると、故繊維の用途は中古衣料としての「リユース(再利用)」と、「反毛」「ウエス」の「リサイクル(再利用)」があるのがわかる。この三つの用途のうち最も多いのが「中古衣料の輸出」で、全体の五〇%強を占める。以上が故繊維リサイクルについてのほんの「基礎知識」の部分。

### ●回収できないものが増えている

故繊維リサイクルの状況としてここ数年顕著なのは、市民が出す故繊維の中に「回収できないもの」が増えていることだ。

そのため故繊維業者の団体である「日本繊維屑輸出組合」(輸出組合・神戸市)は、「古着・古布の回収基準」というパンフレットを作成し、今年五月に組合のホーム

ページに掲載した。①回収ルール、②リサイクルできるもの、③回収できないものが記載されており、回収できないものとしては、「雑巾」「スリッパ」「ペット用に使った毛布やタオル」「ビニール合羽、雨傘」……様々なものが列記されている。

パンフレットは故繊維リサイクルに際しての排出時の「留意事項」や「注意点」を示したものが、しかし中にはひどいものが入っているケースもある。小型の家電製品や鍋などの金属類等々、時として生ごみなどが混入されていることも。これは全国的な傾向で、「もう何でもありに近い状態だ」と関西の業者は渋い顔をする。

### ●故繊維バブルで排出状態が悪化

ここ数年で故繊維の排出状態が悪化したのには理由がある。それは二〇一三年あたりに生じた「故繊維バブル」の影響だ。

日本の中古衣料が海外で高く売れるという評判から、異業種がどつと故繊維の業界に参入してきた。なかでもマレーシアで中古衣料の巨大選分工場を持ち、東南アジアを中心に膨大な量の中古衣料を販売しているN氏が来日して、ある古紙の輸出商社に「故繊維を集め

てくれ。全部引き取る。高値で買うから」とオファーを出したため故繊維市場は大きく荒れた。

この古紙輸出商社は、あまたの古紙問屋に声をかけまくった。結果、日本各地で故繊維の「掘り起し」が起きたのだ。

さらに市町村が分別収集した故繊維を入札にかけはじめた。入札参加資格は特に問わない。域外の者でもいい。要するに高い値段で札を入れた者が落札する、という市町村も多くあって、運送業者や廃棄物処理業者、古紙業者など様々な異業種が入札に参加。故繊維価格は一挙に沸騰してしまった。故繊維欲しさに市町村に向き、「濡れているものでも大丈夫。引き取りますから」と営業をかけて回った異業種もいたものだから、これまで専業業界が築いてきた故繊維の「回収基準」が、あちこちで崩れてしまった。

●環境犯罪ではないのか

財務省の通関統計をみると、「故繊維バブル」は三年ほど続いたように思える。二〇一三年の輸出平均単価はkgあたり五四円。一四年は五六円。一五年五五円と一六年には四三円と大幅に下落。そして今年は一〇

月までの時点で平均四〇円を割り込んでいる。

ちよつと複雑な話だが、この単価は日本国内で故繊維を選分して取り出した「中古衣料」と、選別せずに「無選分」で輸出している部分が含まれている。

前述したように従来から中古衣料の輸出は回収した故繊維を選分して出荷していたわけだが、異業種が参入するようになってから「無選分」で輸出することが起きはじめた。手間をかけずに「お手軽に」輸出できるということで、異業種が参入してきた面もある。

市町村が分別収集で集めた袋に入っている故繊維を、中を出さずに袋に入ったそのままの状態に梱包だけして輸出する。生ごみなどが混入されている袋もあるのでないか。もし、輸出先の国でこうした事態が発覚したら国際問題に発展しかねない。排出元である市町村の責任が問われることにもなるだろう。

無選分で輸出するという商売ともいえないこうした「行為」はある意味、「環境犯罪」的側面を持っているといえるのではないか。

●輸出市場は小さなマーケット

輸出単価の大幅な下落は、海外

マーケットがすでに飽和状態に陥っていることを物語っている。二〇一六年の日本からの中古衣料（無選分故繊維を含む）輸出量は、二四万トン。月平均二万トンだ。

ちなみに古紙は四一四万トンの輸出量。鉄スクラップは八七〇万トンとなっている。古紙も鉄スクラップもこれだけの量を輸出しても海外マーケットに余剰感は生まれない。それに引き替え故繊維はこの程度の供給でアップアップになっている。マーケットがいかに小さいかだ。

●流行、彩色……中古衣料の特性

中古衣料の輸出は流行や色彩が大きなポイントになる。いまやインターネットやスマホの普及によって、世界の情報が瞬時でとれる。流行の衣服も瞬く間に世界に拡散する。

「ガウチョパンツ」「フィッシュテールのスカート」「ロング丈のタンクトップ」……etc. 流行の中古衣料への需要は高い。

また色彩も大事だ。東南アジアの国々は赤や青、黄色といった原色を好む。日本人はどちらかというとおとなしい色の衣服が主体。だから東南アジアのマーケットでは、原色系の中国や韓国の古着の

ほうが人気の面で勝っている。

●行き場を失う地方の故繊維

いま、地方の故繊維が行き場困っている。故繊維バブルのつけが回ってきたのだ。流行の衣服や鮮やかな色彩の衣類は地方ではあまり発生しない。つまり市場価値はそれほどないのだ。集めればいいというものではない。いまのように輸出マーケットが余剰化しているときは、相手国バイヤーもこうしたものは敬遠する。

「ボロを引き取ってくれないか」。專業者にこうした電話がちよくちよくかかってくる。異業種から地方の故繊維を何とかしてほしいと泣きが入っているのだ。所詮は素人。商品知識がないし、マーケット変化への対応もできない。再生資源の中でも故繊維は異質だ。とことんリサイクルするため選分は二〇〇種類を超える。「餅は餅屋」のたとえにあるように、こんな手のかかるものの扱いは專業者でないと難しいかもしれない。

※前号の直言拝聴で、鰐渕さんが出されたクイズの答えは、「岡山市」でした。





## 関東製紙原料直納商工組合 大久保理事長 旭日双光章を受章

関係五市並びに当組合と協定を結び、古紙持ち去りGPS追跡調査で端末をお借りしている関東製紙原料直納商工組合理事長である大久保信隆氏が先の春の叙勲にて旭日双光章を受章されました。併せて氏が代表取締役を務める(株)大久保の法人化五〇周年を祝して、九月二三日に帝国ホテルにて祝賀会が開催されました。私も参加させて頂いた業界関係者を中心とした昼の部、地元荒川区の方々を中心とした夜の部それぞれ四〇〇名の方々が招待され二部制にて盛大に行われました。当組合のヴィーナス通信五〇号にもご寄稿頂いたことがあり、東日本大震災時のご自身の体験を詳細に伝えて頂きました。この度の受章、誠にありがとうございました。(Y・F)



感謝のご挨拶をされる関東商組の大久保理事長(全原連副理事長)

## A-I導入で資源循環・廃棄物

### 処理に画期的変化が始まる

去る一〇月六日(金)、一般社団法人廃棄物資源循環学会主催の表記のテーマによるセミナーに参加してきました。環境省・経済産業省の担当者の方や各業界で先進的な取り組みをされている方々六名からリレー形式での講演と山本耕平氏のコーディネート、講師全員によるパネルディスカッションという内容でした。

第二部の現にA-Iを活用されている実例の講演はなかなか興味深かったのですが、(一財)日本気象協会の本間氏より気象予測と食品メーカーやスーパーとの連携による食品ロスの削減への取り組みのお話でしたが、我々業界に置き換えるならば、天候による回収量の



研究機関やメーカーの方々も多く、会場はほぼ満席状態でした。

増減や回収自体が延期や中止になるリスクを回避できる配車が出る可能性を感じました。また、A-Iを活用した自動選別機を導入している(株)シタラ興産の設楽社長のお話では、事前にフィンランドにあるホストコンピュータに選別する廃棄物を認識、登録させることで、選別ラインを流れる廃棄物をアームが自動選別するというものでした。選別ラインではなく、

平場におろした混合物を選別できるのかという質問に対しては、多くの廃棄物を認識する技術についてはすでにA-Iが持っている、ただ、それを分けるアームが追い付いていないと設楽社長が回答されていたのを聞き、私たちが思っている以上に人工知能は先を行っているのかもしれないと感じました。私のようなアナログ人間には・・・と避けてしまいがちなA-I導入ですが、アナログ人間だからこそ、自分で出来ないビッグデータの管理・分析をA-Iにやってもらえばいいわけだと考え方を転換することが出来ました。また、もしかしてこんなことできないかな、ここをこうしたら効率的だな、そのように、ある意味では妄想を膨らませることで、それ、A-I活用して出来ちゃいますよ！なんて

ことにつながっていくかもしれないと、今後の可能性を感じた次第です。(TKO)

## 資源新報社主催の

### 経済セミナーに参加

去る一月二日(木)、(株)資源新報北日本支局の小松氏にお誘い頂き第一三回北海道経済セミナーに参加しました。伊藤忠の古谷明氏による中国事情の現状と今後の展望、日本生産性本部の喜多川和典氏によるサーキュラーエコノミーとに関する講演でした。古谷氏の中国事情のお話も興味深かったのですが、特に喜多川氏の『サーキュラーエコノミー(CE)』に関しては気になることが多くありました。なかなか聞ききれない言葉でしたが、直訳すると「循環型経済」



札幌市資源リサイクル事業協同組合の東理事長、青年部の皆様とも一緒でした。



となりますが、これまで提唱されてきたような資源循環の効率化だけでなく、原材料に依存せず、既存の製品や遊休資産の活用などによって価値創造の最大化を図る経済システムのことだそうです。欧州ではこのCE型ビジネスを新たな成長戦略として位置付けており、実際年商一千億を超えるリサイクルメジャーと呼ばれる大企業が、一位のベオリアを始め一〇社以上あり、欧州を始め世界各地に進出しているそうです。日本国内にも上水道事業の分野でベオリアが出しています。日本の廃棄物業界は、各自治体別の許認可制であり、新規参入が難しいですが、地域の中小企業が多く、各自治体にまたがる許認可や規制を打破すれば新たな市場として狙われる可能性が十分にあると感じました。

再生資源業界では、大手の間屋や商社による寡占化、M&Aが進んでいます。地域のリサイクルは地元の中小企業が担っており、地域の事情に合わせてきめ細やかなサービスを展開しています。今、国内でけんかをしている場合ではなく、海外のリサイクルメジャーの動きに注視しながら、国内の再生資源業界がまとまっていく必要があると思います。(TKO)

**古紙ジャーナル主催セミナー**

**激変のグローバル古紙市場**

去る一月一七日(金)、表題のセミナーに参加した。タイトルの通り、現在の古紙業界はまさに激変している状況で、中国情勢の影響を受けて九月の輸出価格が暴落して以来、先行きが不透明になっている。私も今後の動きが気になっていて今回のセミナーに参加した。五名の講師の方々のリレー講演とパネルディスカッションだった。気になったお話として、(有)古紙ジャーナル社本願社長からは、情勢が好転しても五〇万トンほど余剰する恐れがあるとのこと。未選別や品質の悪いものは淘汰されるため、品質の管理を徹底すべきだと感じた。

(株)パナケミカル犬飼社長のお話では、使用済プラのほとんどが中国へは輸出禁止の影響を受けているが、東南アジアで七割近くは消費可能であること、中国には圧倒的な需要があり、特別の可能性もあることなどにより、分別と品質管理を徹底することでのリサイクルを確保できる可能性を示唆されていた。

国際紙パルプ商事(株)の中道徹



100名の募集を超える方で満席状態でした。

氏からは、OCCは今後も強含みで推移し、MIXに関しては回収量も減少傾向にあり、東南アジアへの販路拡大で吸収できるのではとのことだった。

結論的には、中国情勢はまだまだはつきりしないところも多く、動向を見守りながら、引き続き分別の徹底と品質の強化を図っていく必要があると思う。皆様には、引き続き分別の徹底をお願いします。(吉浦亜)

**日資連研修会に参加**

去る二月一六日(土)、日暮里のホテルラングウッドにて日資連の研修会が開催された。年末の忙しい時期の開催にもかかわらず、全国から多くの会員の皆様が受講されていた。

日資連飯田会長のごあいさつの後、3R活動推進フォーラムの藤

波氏、平成三〇年の日資連全国大会が開催される熊本の西原副会長、日中交流サービスセンターの王社長の三名の講師の方々から講演があった。

サーキュラーエコノミーの話はなかなか難しく理解できなかったが、これまで築き上げてきた日本の分別排出、分別収集によるリサイクルシステムを覆しかねないもののように感じた。分別の徹底や品質管理を強化しようとしていく中、注視していかなくてはならないと思う。

中国情勢に関しては、各所で様々なお話を伺ってきたが、ライセンスの発行が旧正月明けまでずれ込む可能性があること、また輸入許可量も激減するのではとの話もあり、未だ混沌とした状況であると感じた。(吉浦亜)



全国から多くの組合員の皆様に参加。



リサイクル掲示板

# 三大禁忌品に注意しましょう！

皆様すでにご存知と思いますが、古紙には、製紙原料としてリサイクルできない禁忌品（きんきひん）があります。（以下、公益財団法人古紙再生促進センターホームページより）

## 古紙に出してはいけない!! リサイクルできない紙類

<b>カバンや靴などの詰め物</b>  (カバンの緩衝材)	<b>昇華転写紙</b>  (アイロンプリント紙)	<b>感熱発泡紙 (立体コピー紙)</b>  (点字印刷物)	<b>臭い付き紙</b>  (石鹸や柔軟剤の包装箱)
<b>食品関連のついた紙</b>  (ピザ、ケーキなどの食品を直接包装した容器)	<b>ろう(蠟)紙 (ワックス付段ボール)</b>  (輸入青果物・水産加工品を入れる段ボール箱)	<b>印刷された紙</b>  (金銀の折り紙など)	<b>塗料に使用される紙</b>  (壁紙、防水シートなど)
<b>不織布</b>  (マスク、簡易お手拭、包装紙など)	<b>臭い付でおむつなど</b>  (紙おむつ、生理用品、ペット用トイレシート)	<b>新聞折込チラシ、雑誌、カタログに付随したサンプル類</b>  (サンプルが付いたままの新聞折込チラシ、雑誌)	<b>防水加工された紙</b>  (紙コップ、紙皿、紙製のカップ容器など)
<b>合成紙 ストーンペーパー</b>  (地図、選挙ポスター)	<b>石、ガラス、土砂、金属(工具、機械部品を含む) 木片、布類、プラスチック類</b>  (色の濃いもの)	<b>カーボン紙 ノーカーボン紙</b>  (宅配便の伝票など)	<b>印刷紙</b>  (写真)
<b>ラミネート紙、糊剤・アルミニウムコーティング紙</b>  (酒パックなど)	<b>着色した果物類のクッション材</b>  (色の濃いもの)	<b>シール、粘着テープ</b>  (保証封筒など)	<b>複写紙 (コピー用紙)</b>  (コピー用紙)

(問合せ先) 公益財団法人 古紙再生促進センター 〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 TEL:03-3537-6822(代) http://www.pnpc.or.jp/

※上記のうち、東多摩再資協の回収エリアでは、アルミ付き紙パック（酒パックなど）は、それだけ別にして束ねれば回収しています。

これら禁忌品の中には、多少の混入が許容されるものもあれば、たった1枚の混入により100トン近い損紙が出てしまうほど甚大な影響を及ぼすものもあります。今回は、三大禁忌品と言われる昇華転写紙、感熱発泡紙、臭い付きの紙についてお話ししたいと思います。

### ① 昇華転写紙（捺染紙、アイロンプリント紙）

いわゆるアイロンプリントに使われる紙で、Tシャツにプリントするものが市販されており、ご家庭でも簡単に手に入るものです。最近では、テーブルクロスやカーテンなどの模様をつけるのにも使われています。国内で使用する印刷会社などには古紙に混ぜないように徹底して頂いておりますが、海外で使用された昇華転写紙が廃棄されずに意外な形で日本国内に流入しています。それは、カバン



や靴を買ったときに中に詰め物として使われている紙です。もちろん、詰め物の紙の中には、昇華転写紙でないものもありますが、昇華転写紙かどうか見分けるのは一般の方ではなかなか難しい。そこで、古紙再生促進センターでは、詰め物に使われている紙は、古紙としてリサイクルせずに可燃ごみとして廃棄して頂くよう指導をしています。

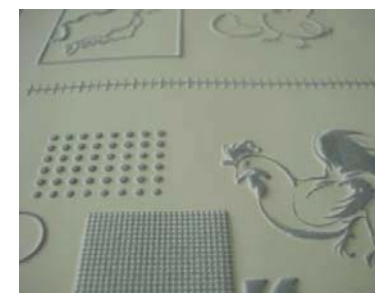


カバンの詰め物として使用された昇華転写紙

昇華転写紙は、混入した場合、アジサイ化現象と言って再生紙にカビのような模様がついてしまいます。A4サイズが1枚混入しただけで100トンの損紙が出ると言われていて、絶対に混ぜないようにお願いしています。

### ② 感熱発泡紙

感熱発泡紙は、発泡性インクが塗られた特殊な紙で、熱を加えることにより、インクが膨らんで浮き出てくるものです。今はあまり見なくなりましたが、以前は点字新聞などによく使われていました。少し高級なおし袋などにも使われていることもあるそうです。こちらも混入した場合、再生紙の表面に膨らみが出来てしまい、大量の損紙が発生します。特殊な紙ですので、あまりご家庭から発生することはないかと思いますが、もし見つけたら古紙としてリサイクルせずに可燃ごみとして廃棄して下さい。



### ③ 臭い付きの紙

これが一番ご家庭から出やすいかもしれません。洗剤の箱や線香の箱などの臭いのきついものです。これらがまとまって製紙原料に混入した場合、パルパーで溶かした際に臭いが全体に広がり、再生紙になった時にその臭いが付いてしまうのです。もし、再生紙がお菓子の箱に使われた場合、お線香の香りがしたら皆様嫌だと思えます。臭いのきつい紙は混ぜないで可燃ごみとして廃棄して下さい。



### ④ その他

海外から輸入される果物や野菜などが入ったどぶ付け（ロウ引き）の段ボールの混入が問題となりました。シーズンもので大量に混入したこともあります。製品に油のシミのようなものが付いてしまい、大きな影響が出ました。このように変わった古紙を見かけたら、まずはご相談下さい。



## まとめ

- ① 三大禁忌品（昇華転写紙・感熱発泡紙・臭い付きの紙）には、特に注意しよう！
- ② ご家庭では、カバンや靴の詰め物の紙、洗剤や線香の箱を古紙に混ぜないように注意しましょう。
- ③ ちょっと特殊な紙を見つけたら、まずは組合に相談（☎42-395-9788）してみよう！  
以上、よろしくお願いします！



## 西東京市廃棄物減量等推進員会の研修会で講演しました

去る一月九日(木)、西東京市エコプラザで開催された廃棄物減量等推進員会議研修会にて、西東京市より依頼を受け『古紙・古布のリサイクルの現状と推移について』というテーマで当組合の紺野専務理事が講演しました。

まず初めに、二〇一六年度の古紙センターの統計資料を基にパーポイントを用いて古紙の需給や回収率などの動向を説明、その後、昨今の中国事情による今後の動向、古着のリサイクルの現状を説明しました。続いて、古紙・古着の分別や出し方について、クイズを出したり、禁忌品のサンプルを見せながら、説明をしました。

廃棄物減量等推進員の皆様は、各地域毎に活動されていて、市民に対して出し方の指導などもされ



パワーポイント、禁忌品のサンプルを使用して講演を行いました。

ています。古紙の品質基準が厳しくなると言われている中、日本の古紙のリサイクルは、出す側の市民の分別意識の高さ、回収業者の分別回収、問屋での徹底選別があつて品質が確保されています。行政や推進員の皆様のご協力には、本当に感謝しています。

なお、今回の研修会に参加された皆様には、雑がみ回収袋に本誌、トイレットペーパー、ブルーメラン、古紙センターのパンフレットなどを入れて配布させて頂きましたが、市からのご依頼で市民祭りのブースでもパンフレットを多くの市民の皆様配布していただきました。組合としては、今後もリサイクルの重要性や古紙を始め資源物の分別を多くの皆様に伝えるため、ご要望があれば出前講習会を実施しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。(柿崎)

## 紙パック回収システム強化研究会で講演

去る二月二〇日(水)中野サンプラザで開催された同研究会で、回収業者の立場から講演させて頂いた。当日は、私の他にNPO法人環境自治体会議環境政策研究所の小沢理事長、(有)古紙ジャーナ

ル社の本願社長も基調講演された。紙パックは当社の独自の計測によると三分の一強が可燃ごみに混入、三分の一が雑がみに混入していたり、紙パックとして回収しているものの雑紙の回収実績に組み込まれてしまっていること、市民が出しやすい行政回収や集団回収で品目として追加してもらおうことで、回収量が増え、実績の数字もきちんと出てくることをお話しさせて頂いた。アルミ付きパックや未ざらしのパック、五〇〇ml未満のパックの取り扱いも各地で異なるため、紙パックを利用する全国どの製紙メーカーでも使用できるような統一の分別基準、分別収集及び加工を行えるように究極的にはして頂きたいと結んだ。集団回収の品目追加の働きかけについては、すぐに取り組めるので、是非やって頂きたい。(TKO)

## Let's お仕事! クルメツザニア二〇一七に参加

まだ残暑が続く九月一七日日曜日に、自由学園にて小学生のお仕事体験イベント、クルメツザニア二〇一七が開催されました。当日は朝から雨で、少し寒いくらいでした。組合からは、三栄サービス



子供たちの体験の様子

の社長、私、木村の三名と藤本チエーンの小野塚さんが参加し、紙のリサイクル屋として、紙芝居で紙の流れの説明と、紙の選別と紙すき体験学習をしました。午前中は、紙芝居と選別の説明を担当しました。少しでも覚えてもらう様に、質問や紙クイズをまじえながら行いました。午後は紙すきの担当をしました。子供たちにとって記念の一枚を作ってもらおうと、一生懸命にサポートしました。今回で二回参加し思った事は、体験者一人ひとりが純粹で素直だと言う事。真剣に耳を傾けて聞き、行動に移す。わからない事は聞く。一見あたりまえと思われる事かもしれないですが、出来ない時もあるのです、彼等の姿を見て改めて良い刺激になりました。今回体験してくれたみんなが大人になったらこの業界に入ってきてくれて、一緒に仕事が出来たらなあ、と願いつつ。(三栄サービス 鈴木)



社会科見学の受け入れ

九月二日(火)当組合のホームページを見て、新宿区の私立成女学園中学校の生徒さんが社会科見学にいらっしやいました。受け入れにあたり、(公社)東京都リサイクル事業協会より送迎バスの協賛を頂きましたので、ご報告方々御礼申し上げます。

午前中は秋津公民館にて講習会を開催しました。始めに、事前に行なった生徒さんの名前入りの名刺を配り、名刺交換の作法を学びました。講習では、紺野専務理事より、古紙リサイクルの歴史に始まり古紙の回収から再生方法、禁忌品の説明をしました。勉強の成果を示すリサイクル実力テストでは、全員満点をとれました。続いて、今回の見学のきっかけになった紙漉きを水野青年部長の説明で体験して頂きました。



午後は、古紙の受入れをしてい

る原料問屋(三栄サービス、J P 資源、日興紙業商事)までバスで移動し、見学をしました。トラックに載って回収されてきた古紙が、ヤードに下ろされ、選別されて古紙がコンベアを昇ってペーラーによって圧縮梱包されるまでの流れを見て頂きました。

お手伝いで、ごみの分別をやっている生徒さんはたくさんいますが、その後どのような処理が行われているかは、知らなかったようでした。社会科見学の受け入れをすることで、リサイクルの輪が広がっていけば幸いです。(Y)

東村山市立第二中(九月一四〜一五日)、第四中(一〇月五〜六日)の職場体験を受け入れました

当社では、今年も二名の中学生を受け入れました。一日目に二中の生徒には古紙の種類やリサイクルの仕方や禁忌品等の勉強会を行い古紙に対する知識を学んでもらい、四中の生徒にも午前中に同様に学んでもらい、ヤード内の見学をして、午後に紐きりや古紙の選別作業を構内作業員に混じって体験してもらいました。二日目は二中、四中共にヤード内で新聞、雑誌等の選別作業を体験してもらいました。古紙が何処



からどのように回収され、選別・加工作業を経て、何処に出荷されていくのかという一連の流れを理解出来るように体験学習してもらいました。

職場体験学習は、生徒の皆さんに学んで頂くだけでなく、我々も初心に帰ってリサイクルの再確認ができて新たな発見がありました。これからも、出来る限り多くの市民の皆様と交流をもつて、社会貢献をしてまいりたいと思います。二日間を通して、生徒たちの将来設計の一助になればと思います。(水野K)

こだいら環境フェスティバルに今年も出展しました

平成二九年九月九日(土)午前十時〜午後二時、小平市立中央公園にて、こだいら環境フェスティバルが開催されました。東多摩再資協では、毎年恒例となっている分別ゲームを出展しました。子供からお年寄りまで様々



古紙の分別ゲーム。ちょっと難しいけど、うまく分別できたら駄菓子をプレゼント!

な方に楽しんでいただけだと思います。分別ゲームは簡単なゲームですが、子供たちはゲームを通して遊び感覚で分別を学ぶことができ、大人たちも分別について再確認することが出来たのではないかと思います。

また、使わなくなったおもちゃ・ぬいぐるみの回収や、リサイクルの推進を目的として牛乳パックとロールの交換も行いました。こちらも好評でたくさんの方が牛乳パックを持参してくれました。

ここ最近雨が続いていたのですが、当日は久しぶりの晴天にも恵まれ、たくさんの方が参加して下さい、とても良い雰囲気の中でイベントを行うことができました。そして、直接市民の方々とリサイクルについて話すことが出来る貴重な機会でした。

このようなイベントを通して、分別やリサイクルへの意識が高まっていけば良いと思います。(W)

**東資協青年部にて  
人材採用をテーマにした  
勉強会を開催しました**

平成二九年九月二一日、東京都資源回収事業協同組合青年部の主催にて「青経塾」と名付けた勉強会を開催しました。毎回テーマを決め、専門家を講師にお招きし開催しており、今回は、株式会社フオーエバー・パートナーズ執行役員の久松佑太氏を講師に迎え「人材採用」をテーマに行いました。

会場は青年部員の他、組合役員、各地の単協青年部の方もご出席いただき、三〇名弱の方々にご出席いただきました。現在、当社も含め業界全体で人材不足が大きな問題となっております。講義の中では一人の求職者を約五社の求人企業で取り合っている状態だそうです。日本全体を見ても高齢化が進



東資協青経塾の開会に先立ち、挨拶をする福田青年部長

み労働人口の減少、加えて我が業界では、運転免許証の取得率の低下から深刻なドライバー不足に大きく頭を抱えている状況です。このような状況ですので、ただただ広告を出すだけではなかなか応募に結びつかないため、応募条件として給与の見直し、雇用形態の見直し（正規社員・パートアルバイト・業務委託）、給与支払い体系の見直し（週一回払い・日払い・給与前払い）など条件の多様化を図ることも方法の一つだそうです。また、久松氏の会社では、二四時間三六五日・連絡時の一五分以内の折り返し、三回まで追客架電、不通時のショートメール送信、面接前日の確認の実施などのサービスも提供しているそうで、こうした求人に関するコンサルタント、サポート会社を利用するのも一計だと感じました。講義を通じて初步的な基本事項を再確認でき新しい発見も数多くありました。

東多摩再資協の組合員の多くも人手不足に悩んでいます。夏は炎天下の作業でし、冬は寒風吹く中での作業になり苦労は絶えませんが、何より地域にお住いの方に感謝される、やりがいがある仕事です。このヴィーナス通信を通じてもしご興味あればご連絡お待ちしております。

(福田・小畑)

**東資協青年部主管の元、関東連資青年部大会東京大会を開催**

一月一八日（土）渋谷エクセルホテル東急にて、第二回関東連資青年部大会東京大会が盛大に開催されました。来賓・関東各県の青年部員およそ七〇名が参加して頂きました。

今回は、東京開催ということ、東資協青年部が主管となり設営をさせて頂きました。

第一部式典にて、濱田関東連資青年部長、福田東資協青年部長からそれぞれ挨拶があり、この業界における次世代への橋渡しと現在の組合の置かれている状況を考え、どれだけスケールアップして結束を深めていけるかについて、力強い決意表明がありました。



福田青年部長の呼びかけの下、関東各県から多くの青年部員が集結しました。

第二部記念講演では、コロッケ先生こと明和製紙原料(株)代表取締役

役小六信和氏を講師にお招きし、『紙はゴミじゃない!』をテーマに、捨てられてしまう紙を一枚でも多く救いたいという情熱を込めた講演をして頂きました。紙漉きの実演あり、クイズありの楽しい授業のような講演会でした。



濱田関東連資青年部長、コロッケ先生、福田青年部長の3ショット

第三部懇親会では、各県青年部の活動報告が行われ、活動予定や今後の目標が語られ、お互いを刺激しあう場となりました。アトラクションでは、女性マジシャン、シエルさんによる会場を巻き込んだ楽しいショーもある中、各県青年部同士、有意義な意見交換もでき、笑顔あふれる楽しい会となりました。

(水野K)



シエルさんによるマジックショー



# 防災・災害支援の取り組み

## 小平市で開催された

### 東京消防の震災訓練に参加

当組合では、昨年三月に小平市

と防災に関する協定を締結しました。その日頃からの取り組みの一環として、小平市在住で普通救命講習の受講者である若林茂治氏が小平市災害時支援ボランティア協会に入会しました。同会は、小平市に在住若しくは在勤の有志参加によるボランティア組織で、地域の防災リーダーとして年間を通じ訓練に励んでいるほか、市・消防署で企画された訓練や演習へ参加したり、小平市内の大学、高等学校などで行っている普通救命講習、町会・自治会で実施している防火防災訓練に指導者として参加するなどして、震災など大規模な災害の発生に備えた地域防災力の向上に取り組んでいます。昨年一月一八日(土)、都内で一斉に開催さ



小平市災害時支援ボランティアで活躍する若林茂治氏

れた東京消防庁の震災訓練にも早速参加し、小平消防署はじめ地域防災を担っている方々と連携し、可搬ポンプを使用した放水訓練、要救護者に応急手当をする訓練を行いました。



組合では、紺野専務理事が東村山市消防団員として活躍しており(右の写真は出初式の一斉放水の様子)、また応急手当普及員(普通救命講習の指導を行うことが出来る)の資格を持っています。組合では、下の記事の通り各所にAEDを設置しており、組合員の中には普通救命講習を受講しているものも多数おります。今後さらに普通救命講習の受講者を増やしていくことも考えております。これからもいざという時に地域

の安心安全のために率先して協力できるよう、こうした取り組みについても進めてきたいと考えております。(山本)

### AED (自動体外除細動器) の講習会を開催

この度、当組合のリサイクルセンターと、各組合員に設置しているAED(自動体外除細動器)が、契約満了を迎え、契約更新のために新しいものと交換した。

これに伴い、AEDを初めて購入した時に実施して以来だったAED(自動体外除細動器)の利用方法や、救命救急を要する患者の救助方法等についての講習会を、アルソック(総合警備保障株式会社)の担当者を招いて開催した。

実際に、救命救急を要する患者が、目の前で発生した場合を想定して、救急車を呼んで到着するまでの間に行うべき人工呼吸や心臓マッサージ等の救命蘇生措置の方法を指導してもらって体験するとともに、AEDの操作準備から操作開始、操作終了までの手順を学んだ。

AEDは、ふたを開いて電源をONにすればガイダンスが流れ、その指示通りに操作、要救護者に



装着すれば、自動で診断し必要に応じて電流が流れるため、誰でも取り扱うことが可能だが、いざ本当に救命救急を要する患者が、目の前に現れた時、落ち着いて行動できるよう、こうした日ごろの訓練が非常に重要であると考える。救命救急を要する患者さんの命を少しでも救えるように、役立てていきたい。(柿崎)

※なお、組合では、左記の場所でAED(自動体外除細動器)を設置しておりますので、緊急時には是非お役立て下さい。

- ・ 組合事務所
- ・ 小平市リサイクルセンター
- ・ (株)三栄サービス
- ・ (株)久米川紙業
- ・ 小畑商店(株)
- ・ 奥山商店(株)
- ・ 日興紙業商事(株)
- ・ JP資源(株)東村山事業所



## 資源回収の安全と

## 品質の確保を目指して

共同受注検査実施中

組合では、官公需適格組合の認定に基づき、作業の安全確保、品質向上のため、定期的に共同受注検査を実施しております。

秋の検査では、東久留米市環境安全部ごみ対策課の敷地をお借りし、行政回収の出庫前検査を行いました。車両の整備点検、ステッカー等の貼付、車検、備品の確認と運転手の免許証、アルコールチェック、健康状態など、毎朝各社において点呼で行っていることを検査員が客観的にチェックを行います。今回も大きな指摘事項はありませんでしたが、指定作業を着用していないなど、ちょっとした服装の乱れから、気のゆるみ、大きなミスにつながる可能性もあると肝に銘じて、委託業務を行うてまいります。

(土井)



## 行事・行動

【平成二九年九月】

一日：小平RC責任者会議

：官公需共同受注検査

六日：業務最適化管理システム説明会

：東部リサイクル事務協合理事会

九日：小平市環境フェスティバル

十一日：定例理事会

十二日：成女学園中学校社会科見学

十四日：東村山市立第二中学校職

場体験(十五日まで)

十七日：くるめツザニア

十九日：官公需共同受注検査

二五日：総務委員会

：財務委員会

二六日：小平市廃棄物減量推進審議会

：清瀬市廃棄物減量推進審議会

二七日：東村山市業者連絡会議

【十月】

四日：東村山市リサイクルフェ

ア実行委員会

：広報委員会

五日：東村山市立第四中学校職

場体験(六日まで)

：小平市ごみ減量実行委員会

六日：小平RC責任者会議

十日：東久留米市廃棄物減量推進審議会

十一日：定例理事会

十八日：業務委員会

十九日：エコドライブ講習会

二二日：市民ごみ大学セミナー

二三日：エコドライブ講習会

二六日：青年部会議

二七日：総務委員会

【十一月】

三日：小平RC責任者会議

九日：西果早市廃棄物減量推進員会議

：小平市リサイクルまやらぼん

十日：定例理事会

十四日：小平市ごみ減量実行委員会

十五日：回収作業員安全講習会

十七日：官公需共同受注検査

：古紙ジャーナルセミナー

十八日：小平市消防署消防訓練

二〇日：GPS調査(東村山市)

：西東京業者会議

二三日：官公需共同受注検査

二四日：官公需共同受注検査

二七日：小平市ごみ減量実行委員会

二九日：東村山市業者連絡会議

【十二月】

一日：小平RC責任者会議

四日：財務委員会

：集団回収委員会

：業務委員会

九日：組合ホールディング大会・忘年会

十一日：定例理事会

十六日：日資連研修会

十九日：GPS調査(小平市)

二六日：総務委員会

：広報委員会

二九日：仕事納め

## 編集後記

あけましておめでとうございませう。本年も最後までご拝読賜り、誠にありがとうございます。

まずは、直言拝聴をご寄稿頂きましたウエイストリサーチの瓦葺社長、ありがとうございます。当組合も古紙をメインに扱っている組合員が多く、古紙維については分からない部分も多かったので大変勉強になりました。ありがとうございます。

さて、本年は、陰陽五行説でいうと戌戌(つちのえいぬ)の年になります。簡単にまとめてしまうと明暗が分かれる年、頑張つてきた人は花開き、努力しない人は現状維持よりも悪くなる、そんな年になると言われています。当組合にとつては、組合創立二五周年の年となり、まさにこれまで資源リサイクルの現場最前線で努力してきたことが実を結ぶかどうかの試験の年だと考えています。

組合としては、これまで以上に行政、市民の皆様と手を取り合つて、地域密着型の資源リサイクルの推進を図り、三〇周年、四〇周年に向けた大きな飛躍の年としてまいりたいと考えておりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(TKO)